



10月24日(日)に、明野町民俗芸能保存会による、第1回伝統芸能研修会「明野のお神楽」が開催され、かやぶんも事務局としてお手伝いさせていただきました。今回はその様子をレポートします。(内海)



北杜市明野町には、現在もお神楽を継承している神社が6社(神楽保存団体)あり、その中には、多くの伝統芸能と同じく「後継者問題」を抱える団体もあります。そこで、6団体全てが参加して「明野町民俗芸能保存会」(会長:伊勢神社神楽保存会 清水坦)を平成22年春に設立し、芸能の技を磨き、後継者を発掘・育成するために、年に一度、研修会を開催することになりました。今回がその第1回でした。

「明野のお神楽」では、神社の例大祭で一日かけて奉納される舞の多くを、各団体が担当しました。神楽が奉納される春季例大祭は、毎年4月の第1・第2日曜日に集中的に行われるため、他の神社の神楽を観ることは、保存団体の人と言えど滅多にありません。このような貴重な機会を保存会の中だけで終わらせるのではなく、広く市民の皆さんにも観ていただきたいと考え、公開の形で催しました。

ステージ上には立派な祭壇を設けました。非公開でしたが、開催に先立ち、須玉町江草の十五所神社の篠原宮司にお越しいただき神事を執り行いました。その後、「斎場清めの舞」に始まり、午前に6演目、午後に7演目が披露されました。午後の部はじめには、女子による「浦安の舞」と、かやぶん主催の「こども神楽教室」の子ども達による「玉取りの舞」も披露され、かわいい子ども達の舞に、来場者の皆さんからは惜しみない拍手をいただきました。

同じ明野町内のお神楽ですが、保存団体によって、舞の所作の細部や楽(篠笛と太鼓による演奏)に違いがあり、保存会の皆さんはとても真剣にご覧になっていました。

開演前は、一般のお客さんは少ないかな、と思っていたのですが、町内外から老若男女、様々な層のお客さんが約200名もご来場くださいました。小さなお子さんを連れてお客さんも多く、子ども達が、初めて観るであろうお神楽に心奪われ、例えば「猿田彦命の舞」の天狗面をつけた舞手の真似を一心にしている男の子の姿が印象的でした。

神社の例大祭で神様に奉納される舞、と聞くと、お神楽は随分敷居が高く感じられてしまいます。事実、神聖な舞であることに違いはありませんが、ひと昔前、他にあまり娯楽が無かった時代には、氏子さん達の年に一度の楽しみだったといえます。お神楽を、もっと近くに感じ、親しみを持ってもらえれば、保存に関わる者としては大変嬉しいです。そしてきっと、そういうところから、未来の舞手は生まれるでしょうし、明野町のお神楽全体の発展に繋がると思います。

明野町民俗芸能保存会では、来年度以降もこのような研修会を開催していく予定です。お神楽をはじめとした、地域の伝統芸能にぜひ触れてみてください。



(伊勢神社神楽保存会) 楽の様子



(宇波神社神楽保存会) 斎場清めの舞



(飛尾新田神楽保存会) 仁の舞



(三嶋神社神楽保存会) 国堅めの舞



(宇波神社神楽保存会) 猿田彦命の舞



(三嶋神社神楽保存会) 二人剣の舞



(伊勢神社神楽保存会) 保食神の舞



(白山神社) 浦安の舞



(伊勢神社神楽保存会) 玉取りの舞



(浅尾新田神楽保存会) 四弓の舞



(各保存団体) 天岩戸



(飛尾神楽保存会) 乙の舞